

2 身体活動・運動			
目標項目：2-1 意識的に運動を心がけている人の増加			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (H12 県民健康栄養 調査)	中間評価 (H17 県民健康調査)	直近値 (H22 県民健康・栄養 調査)
成人男性 63%以上	41.7%	41.9%	53.3%
成人女性 63%以上	48.3%	46.5%	50.7%
直近実績値に係る データ分析 (直近実績値がベース ライン値に対してどの ような動きになっている か分析)	<p>○男性は、有意に増加した(片側P値<0.001)。</p> <p>○女性は、有意な変化はなかった(片側P値=0.119)。</p>		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での 課題や留意点がある 場合に記載)			
その他データ分析に 係るコメント	<p>○男性は、40歳代が最も低く、60歳以上では、目標値に達している(平成22年調査男性結果：20歳代46.1%、30歳代42.7%、40歳代39.2%、50歳代49.1%、60歳代65.0%、70歳以上72.1%)。</p> <p>○女性では、20歳代が最も低く、概ね年代が上がることに高くなるが、いずれの年代も目標値には達していない(平成22年調査女性結果：20歳代29.7%、30歳代40.7%、40歳代45.9%、50歳代52.9%、60歳代62.6%、70歳以上59.3%)。</p> <p>○全国値(平成20年国民健康・栄養調査結果)は男性58.7%、女性60.5%であり、男女とも全国より低い。</p>		
最終評価及びコメント	○男性は改善した	<p>評価 男性B 女性C</p>	
今後の課題及び対策の 抽出 (最終評価を踏まえ、今後 強化・改善等すべきポイ ント)	<p>○日常的な生活の中で意識的に体を動かすことについて、更なる普及が必要である。また、男性は改善傾向にあるものの、女性は変化がないことから、女性や若い世代向けの啓発が必要である。</p>		

2 身体活動・運動			
目標項目：2-2 日常生活における歩数の増加			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (H12 県民健康栄養 調査)	中間評価 (H18 県民健康・ 栄養調査)	直近値 (H22 県民健康・ 栄養調査)
15歳以上男性 8,000歩以上	7,431歩	7,109歩	6,718歩
15歳以上女性 7,000歩以上	6,705歩	5,990歩	6,125歩
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	<p>○平成12年と平成22年を比較すると、男性は有意な差はなかった(片側P値=0.159)。</p> <p>○平成12年と平成22年を比較すると、女性は有意に減少した(片側P値=0.021)。</p>		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記 載)			
その他データ分析に係る コメント	<p>○男性は、50歳代が8,809歩と最も高く、目標値の8,000歩を超えていた。女性では15～19歳, 20歳代, 40歳代, 60歳代で目標値の7,000歩を超えていた。</p> <p>○歩数を増やすよう意識している人の割合の平成12年と22年の比較では、男女とも有意に増加している(男性:31.6%→42.6%, 片側P値<0.001, 女性:35.5%→43.2%, 片側P値=0.002)が、歩数の平均値は減っている。</p> <p>○全国値(平成21年国民健康・栄養調査結果)は男性7,243歩, 女性6,431歩であり、男女とも全国より低い。</p>		
最終評価及びコメント	○女性で悪化した	評価 男性C 女性D	
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強 化・改善等すべきポイント)	<p>○歩数は余暇時間に行われる運動と比較的活発な生活活動をあわせた身体活動の指標であり、この減少は生活習慣病の発症などの危険因子となるため、歩行数増加のためのポピュレーションアプローチを推進していくことが必要である。</p>		

2 身体活動・運動			
目標項目：2-3 運動の習慣化（運動習慣者の増加）			
目標値 （平成22年度）	ベースライン値 （H12 県民健康栄養 調査）	中間評価 （H18 県民健康・ 栄養調査）	直近値 （H22 県民健康・ 栄養調査）
成人男性 41%以上	22.8%	30.2%	36.2%
成人女性 49%以上	25.4%	21.2%	26.6%
直近実績値に係る データ分析 （直近実績値がベース ライン値に対してどの ような動きになっている か分析）	<p>○男性は有意に増加した（片側P値<0.001）。</p> <p>○女性は有意な変化はなかった（片側P値=0.120）。</p>		
データ分析上の課題 （調査分析をする上で の課題や留意点がある 場合に記載）			
その他データ分析に 係るコメント	<p>○平成22年度の調査結果では、男性は、60歳代で47.1%、70歳以上で48.3%と目標値を超えていた。女性では、いずれの年代も目標値の49%を下回った。</p> <p>○運動習慣のない者のうち、何かきっかけがあれば運動したいと考えている者の割合を平成12年と平成22年で比較すると、男性は有意に増加した（片側P値<0.001、63.2%→72.0%）が、女性は有意な差はなかった（片側P値=0.285、68.5%→71.4%）。</p> <p>○全国値（平成21年国民健康・栄養調査結果）は男性32.2%、女性27.0%であり、男性は全国より高いが、女性は低い。</p>		
最終評価及びコメント	○男性は改善した	<p>評価</p> <p>男性B 女性C</p>	
今後の課題及び対策の 抽出 （最終評価を踏まえ、今 後強化・改善等すべき ポイント）	<p>○男性は、運動習慣者が増加しているが、女性は変化がなかった。しかし、男女ともきっかけがあれば運動したいと考えている者が7割程度いることから、運動を行うきっかけ（各種イベントや教室、啓発普及、サークル活動の支援など）を様々な機会をとらえて作っていくことが必要である。</p>		

2 身体活動・運動			
目標項目：2-4 何らかの地域活動を実施している者の割合の増加			
目標値 (平成 22 年度)	ベースライン値 (H12 県民健康栄 養調査)	中間評価 (H17 県民健康調査)	直近値 (H22 県民健康・ 栄養調査)
60 歳以上男性 58%以上	25.8%	30.2%	24.0%
60 歳以上女性 50%以上	28.3%	21.2%	28.5%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	○男性は有意な変化はなかった (片側 P 値=0.234)。 ○女性は有意な変化はなかった (片側 P 値=0.270)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)	○地域活動の定義については、細かく設定されていない。		
その他データ分析に係る コメント	○全国値 (平成 20 年高齢者の地域社会への参加に関する意識調査) は男性 64.0%, 女性 55.1%であり男女とも全国を大幅に下回ってい る。		
最終評価及びコメント	○男女とも変わらない		評価 C
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強 化・改善等すべきポイント)	○全国と比較してかなり低い水準にあることから、社会参加のきっか けづくりとして、地域活動の活動情報の提供や、気軽に活動をでき る場面づくりなどを進めていく必要がある。		

2 身体活動・運動			
目標項目：2-5 保健所や市町村が実施する運動指導を受けた人の増加			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (H11 地域保健・老人保健事業報告)	中間評価 (H17 地域保健・老人保健事業報告)	直近値 (H21 地域保健・老人保健事業報告)
60,000人以上	15,656人	17,032人	15,540人
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	○平成12年と平成21年を比較すると、ほとんど変わらない。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○直近値は平成21年度分である。平成22年度分については、東日本大震災の影響で、現時点で宮城県分のとりまとめが行われていない。		
その他データ分析に係るコメント			
最終評価及びコメント	○変わらない		評価 C
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○運動を行うきっかけが増えるよう、各地域や職場や学校など様々な場面で運動指導を受ける場面を積極的に作っていく必要がある。		

目標項目：2-6 健康運動マンパワーの増加			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (H12 健康運動指導士等名簿)	中間評価 (H18 健康運動指導士等名簿)	直近値 (H22 財団法人健康・体力づくり事業財団事業報告書)
健康運動指導士数 200人以上	111人	202人	246人
健康運動実践指導者数 700人以上	361人	549人	585人
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	<p>○健康運動指導士数は、目標に達した。</p> <p>○健康運動実践指導者数は、増加したが、目標には達しなかった。</p>		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○宮城県内に居住する資格保有者の数のみの把握であり、所属施設や活動状況などについては、把握できない。		
その他データ分析に係るコメント	○健康運動指導士、健康運動実践指導者については、県内大学・専門学校等で養成コースがあるため、毎年新規養成が行われている。		
最終評価及びコメント	○改善した		<p>評価</p> <p>健康運動指導士 A</p> <p>健康運動実践指導者 B</p>
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	<p>○過去に県で市町村や保健所職員を対象に、健康運動実践指導者の養成講習会を行ったが、資格については、取得後研修を受講し単位取得を行って5年ごとに更新を行う必要があり、運動指導を行わない部署等への異動により、資格を更新できないケースなども出てきている。</p> <p>○資格の有無にかかわらず、健康づくりのため効果的で安全な運動指導が行えるよう、運動指導担当者への必要な研修の機会などを作っていくことが必要である。</p> <p>○健康運動指導士と健康運動実践指導者は、5年毎に登録更新が必要であり、そのためには、講習会を受講し単位を取得しなければならないが、部署の異動等により、講習会を受講できなくなり資格更新ができないケースがある。</p>		